

〔発言者〕 山田拓民

〔発言年月日〕 2006 年

〔生年、被爆地、職業など〕 長崎で被爆。

〔内容〕

いうまでもないことですが、被爆体験を語ること、書き残すことは、決して昔噺ではなく、原爆投下という絶対に人間として許すことのできない犯罪行為を告発し、二度と核兵器を使わせないという決意の表明ということができます。(中略)

原爆の被害、核戦争の被害は絶対に受忍しない、受忍させない、という決意を込めて、被爆の実相を語りつぎ、書き残すことこそ、核兵器のない世界への展望を切り開くのではないのでしょうか。

〔注〕

長崎原爆被災者協議会の活動に長年にわたり携わってきた山田拓民さんの言葉。山田さんの被爆体験については、その著書『《創作集》あの日 鬼になった』に詳しい。

(『証言 2006——ヒロシマ・ナガサキの声』長崎の証言の会編、2006 年所収)